

和州中世高田歴史年表

西 曆	年 号	事 項
1006	寛弘 3 年	6 月大和守源頼親の従者馬允当麻為頼、興福寺領池辺園預を殺害、僧兵が当麻私邸を焼き、その田畑 200 町歩を踏損する。
1140	保延 6 年	当麻為連が家地 2 反を当麻三子に売却する。(土庫領)
1173	承安 3 年	興福寺僧兵が多武峯を焼き払う。攻撃軍に広瀬当武者倫成、池尻三郎家資、四郎助成、北隅平太国親、曾根源太季方、布施行弘等・興福寺領平田庄荘官が加わる。
1180	治承 4 年	平重衡が大將軍として、南都興福寺・東大寺を焼く。
1196	建久 7 年	地頭仲教入道家人・興福寺西塔守礪野郷住人義弁法師が多武峯墓守紀助頼を殺害。
1197	8 年	多武峯墓守ら義弁法師の住宅を打ち壊す。
1198	9 年	伊福寺住持実賢ら、大般若教 600 巻を写経、高田郷・高田里・平田庄高田・高田村の記述
1222	貞応元年	7 月当麻宗正、為清、為信、仙寿丸、為祐等一結衆 30 余人天神社創建する。
1283	弘安 6 年	8 月高田天神社二度目の造営。
1315	正和 4 年	春日若宮で初めて流鎧馬が始まる。
1324	正中元年	越智邦永・越智四郎重房・生磯五郎友高が幕府に反逆し、楠木正成によって鎮圧された。
1333	元弘 3 年	大和の高間大貳行秀・高間輔房快全が幕軍と戦う。
1338	延元 3 年	高田兵庫守入道宗貞、吉野金峯山寺山門に仁王像を寄進(南朝方)
1351	観応 2 年	一乗院・大乘院が確執、一乗院領済恩寺において春日社神人の春藤為道が箸尾為秀に打擲刃傷される。双方合戦。この頃より、撰閥家による寺領荘園支配が崩壊し、国人・衆徒・国民の自立化が進む。
1357	延文 2 年	越智伊豆守・吐田兵衛尉らが一条院門跡実玄と共に大乘院方の禅定院・宝積院を焼いて大乘院門跡孝覚を逐った。
1363	貞治 2 年	当麻為方(当麻氏 27 世)生まれる。
1384	至徳元年	春日若宮の流鎧馬の願主人に高田殿・万歳殿・松塚殿・北角殿・土庫殿等大和国人 68 人の名前現れる。当麻為貞(当麻 28 世)生まれる。
1395	応永 2 年	高田天神社三度目の造営
1399	6 年	高田堀江氏始祖堀江宗慶生まれる。父は箸尾家中の堀江宋賢なり。長男宗箸尾宗家を相続する。次男宗慶(善蔵)・三男頼道(源蔵)は高田に移住し高田当麻氏に仕える。妻は箸尾北見氏の女なり。筒井順覚(順永法印)出生、翌 7 年に一向宗が大和に入る。
1403	10 年	3 月越智家高、十市遠重と高田確執、越智勢 100 人ばかり討ち死にする。
1404	11 年	7 月箸尾為妙・十市遠重が筒井某と戦いこれを破る。幕府が使者を派遣してこれを停止。宇陀郡の沢氏と越智氏が多武峯衆徒と合戦。これには十市・布施・当麻為清・吐田・俱志羅の諸氏も出陣し国中合戦の様相を見せる。
1406	13 年	2 月幕府は、箸尾・十市を討つため、赤松義則・畠山満家を発向、領地を没収。
1407	14 年	箸尾城主藤原朝臣当麻為宗死去。嗣子なし巧如上人の末子当麻雅楽頭為方(血族)跡を継ぐ。 平田庄荘官請文に高田為益同行政・同政種・布施行忠・萬歳則盛の名を見る。 3 月越智家高・十市遠重と高田合戦。
1409	16 年	箸尾氏が筒井氏を攻めて勝利する。
1414	21 年	興福寺の課した反銭を無沙汰した高田氏を始め 13 人の国人を南都に招集する。 多武峰衆徒と宇陀沢氏が合戦。沢に越智合力・十市・布施・高田・吐田・俱戸羅参戦。 ついで国人 50 人余を京都に呼び私合戦を禁じる。高田状に高田為清の名が見える。 招集衆徒、古市・番条・筒井・飯高・井戸・豊田・中坊・小泉・福智堂・龍田・矢田・六条・宝来・岸田・長柄中・杉本東・櫛原・菅原・多田・小夫・中御門武蔵・今市・秋篠北・秋篠南・山田・平等坊招集国民、越智・十市・片岡・箸尾・布施・万歳・岡・高田・檜原・吐田・俱戸羅・嶋・立野・森屋筒井・豊田(吐田庶子)・梶屋(布施子)・笛堂(布施子)・玉手(越智子)・坊城(越智子)・鳥屋(越智子)・加留(越智子)・新賀(十市子)・新(箸尾子)・柳本・山田・福住・中村

1424	31年	当麻為秀（当麻氏29世・初代高田城主）生まれる。
1426	33年	高田堀江氏二世玄蕃頭宗政生まれる。妹八重は同家中老職の森淡路に嫁す。
1428	35年	11月大和の徳政一揆、奈良に攻め入り徳政行われる。
1429	永享元年	大和永享の乱始まる。井戸・筒井順覚・十市等と豊田・中坊・箸尾次郎左右衛門・越智・秋山・万歳・沢氏が合戦。南北合戦となる。筒井氏敗北、領内を焼き払われる。 2月宇陀郡で土一揆蜂起する。 3月足利義宣に將軍宣下、義政と改名する。
1430	2年	2月幕府、興福寺の両門跡・衆徒をして豊田中坊を討たせる。越智側一門激怒し反幕府 8月18日当麻雅楽頭為方死去67才。妻は筒井順快の娘。嫡子は為貞（有井城主）
1431	3年	8月興福寺一乗院の反銭徴収に高田氏・万歳氏等四荘官が異議を唱え沙汰せず。8月筒井順覚が越智側の箸尾城を焼く、箸尾逆襲、筒井危機で幕府に加勢乞い畠山加勢する。
1432	4年	足利義教の命により、当麻兵庫守為貞48才高田城築城。嫡子為秀9才を城主とする。 大和土一揆、年貢免除を訴えならに攻め入る。年貢免除の土一揆越智惟通・箸尾と興福寺側筒井順永合戦、筒井氏散々に打ち負ける。箸尾次郎佐衛門は興福寺に攻め入り筒井順永を追う。 筒井方の成身院光宣の申し立てにより、幕府赤松義雅・畠山持国が越智を討伐、越智没落。
1434	6年	8月越智氏が筒井順覚を破り南都を制圧、筒井順覚茲明寺にて討ち死。
1435	7年	幕府が大名を派遣、越智氏討伐翌年になるも、越智・箸尾連合して堅固に防ぐ。筒井順弘還俗して総領となる。筒井氏反撃し越智側小泉氏を攻める。小泉城郭を焼いて逃れる。成身院要請により、幕府軍が後南朝方の越智討伐のため大和進出。越智方夜討ちを掛ける。 11月大乘院領48カ所の百姓ら蜂起する。
1436	8年	正月、幕府、大和討伐を強化。一色・武田が大和に下向する。
1437	9年	正月、將軍義教自ら越智討伐を決意。越智氏、幕府軍と越智合戦。越智舎弟討ち死にする。 5月幕府軍・畠山・細川・京極勢と越智・箸尾と大合戦。 7月大覚寺門主義昭と越智氏共謀して將軍義教に反抗。 8月越智・箸尾方の多武峯寺に、細川・斯波・山名軍発向。越智氏・箸尾氏逐電逃亡する。
1438	10年	3月14日、当麻為貞（当麻氏28世）死去54歳。妻 箸尾中将為宗の女なり。
1439	11年	当麻為長（当麻氏30世・2代高田城主）生まれる。幕府が越智氏・箸尾氏を探索する。 3月越智舎弟次郎自害、伊予守越智惟通、長谷寺で討たれる。 4月に箸尾次郎佐衛門討たれる。大和永享の乱終わる。
1440	12年	5月將軍足利義教、一色 5月十市遠栄が越智方の榎原で自害させられる。越智氏遺跡は榎原某が継承する。
1441	嘉吉元年	筒井順弘が成身院光宣等兄弟に背かれ、縁者立野氏を頼り没落。筒井順永還俗し総領。越智春童丸（家栄）畠山持国の援助により越智総領の榎原某を破る。 將軍足利義教暗殺される。
1442	2年	11月筒井順弘・立野氏が、筒井順永・成身院光宣らをせめるも敗北し四方に没落する。順弘側の木津父子・狛下司・豊田頼英も敗退。光宣側の山村氏・辰己郡山も討ち死に。
1443	3年	筒井順弘側に越智・古市・布施・豊田・箸尾、筒井順永・光宣側に高田氏。 4月高田天神宮・四度目の造営。当麻為秀嫡男 願主 晴千代丸（為長か？）箸尾一族間に争い起こる。総領の箸尾次郎佐衛門家を庶子家箸尾辰己宗信（中興の祖）が倒し中川党の首領となる。この時より箸尾氏は筒井氏と和睦して永く盟友となる。筒井順弘、越智氏援助のもと筒井城に復帰するも、一族の内紛で殺害される。 9月大乘院門跡経覚・古市胤仙・豊田頼英・小泉重弘が成身院光宣を奈良に攻め、筒井実憲と合戦する。筒井側敗れ成身院光宣筒井館に退く。筒井順弘側に古市・布施・越智・豊田・箸尾。筒井順永・成身院光宣側に高田氏・筒井順永・成身院光宣等も幕府方の

		追求もあり没落。
1444	文安元年	正月、大乘院門跡経覚が16人の衆徒・国民に下知し筒井館を攻略する。布施・越智・宝来・龍田・古市・小泉・木津・豊田中・十市・箸尾・岡・嶋・片岡・超昇寺・番条等の経覚側が敗れ、経覚自身が京都嵯峨に逃れた。
1446	3年	1月東大寺の戒壇院、炎上する。大和馬借も徳政を求め、奈良を攻める。
1447	4年	8月29日南高田春松、曾我高田氏の差し金で若党に殺される。 10月18日経覚側の布施行種高田当麻氏を攻めるも高田護りきる。これ以前曾我高田分家か？。寄手の手負い人、数十人におよび深楽堂塔を焼き退く。高田氏は成身院・筒井氏側であった。こ時期高田氏内には、当麻高田・布施高田・別派の曾我高田があったようである。
1449	宝徳元年	徳政一揆が起こり、元興寺・大乘院が焼かれる。大和武士が後援す。
1453	享徳2年	筒井順覚（順永法印）没55歳。
1455	康正元年	高田・筒井順永・箸尾・片岡が猶子畠山政長を助けて、庶子畠山義就・越智家栄と戦う。政長方高田等敗走する。越智家栄戦勝により大和で勢力を拡大する。曾根の名稱寺が百濟二条より移転。
1457	長禄元年	興福寺一乗院方坊人として、国民の内に高田が見える。その他の一乗院国民として、越智・箸尾・布施・万歳・岡・細井戸・金剛寺・佐味・中村・嶋・桐谷・曾歩々々・平群新・兼殿庄屋・箕川下司・御陵・超昇寺下司・吹田・同豊田・鳥屋・小島・宇賀尾・箸尾大門・岡今井・万歳南・同北井等々。大乘院坊人として、十市・檜原・倶志羅・南郷・柳本・吉備・窪・長谷川党等々。高田氏曲川庄の年貢を無沙汰し、興福寺の諸会式へ参加を拒否される。 高田・筒井・箸尾と畠山政長・細川勝元とは親密。政長の後援者細川勝元が、敗走流浪する筒井・箸尾・高田等を憐れみ、幕府に周旋して故郷に帰る。以後細川氏を徳として畠山政長に与党す。 山城木津の馬借蜂起し、奈良を攻撃する。
1458	2年	大和布留郷、徳政と年貢未進により討伐される。
1459	3年	6：7月越智家栄が箸尾某の佐味城を横領、筒井順永が越智方の小泉・龍田・番条・万歳を破り、箸尾を援ける。
1460	寛正元年	畠山政長と畠山義就、龍田に戦う。義就敗走。布施高田・筒井順永・成身院・十市遠清、政長側に加勢、河内に義就軍を追う。義就軍に鳥屋備中守、古市彦三郎・箸尾。義就軍敗れ義就嶽山城に籠城す越智家栄・曾我高田加勢する。 9月畠山政長と畠山義就が宇陀郡に於いて戦う、政長方の牧野氏が討たれる。
1461	2年	畠山義就高野山に没落。幕府が越智家栄・筒井順永・十市遠清に河内若江城を守らせる。 古市胤憲没、翌寛正2年に山城木津の馬借、奈良を攻撃。
1463	4年	糧道を断られたた畠山義就軍、吉野に逃れる。これを越智家栄から扶持。
1465	6年	高田堀江氏三世・政高（善蔵）が生まれる。
1466	文正元年	吉野の畠山義就を京都の山名持豊が京都に招き、義就を越智家栄が案内して河内に入る。 大和国衆・畠山義就方＝越智弾正忠家栄・吐田・曾我高田・小泉延定房・高山・万歳・岡等々。畠山政長方＝筒井順永・成身院光宣法印・箸尾入道宗信・布施・布施高田・多武峯一山。 多武峯寺衆徒越智郷に押し寄せるが敗退する。 9月大和土一揆、奈良を攻撃。 9月布施高田・布施の両城が義就・越智家栄の軍に攻め落とされる。寛正元年の龍田の敗戦の報復として、布施・高田・箸尾が槍玉になった。この頃越智氏が大和で最強に。横大路を挟んで、北軍布施高田・布施・箸尾・十市・筒井・成身院・政長・勝元と南軍・越智当麻高田・猶原・古市・義就・宗全が対決。 9月2日義就軍の南河内進出を助ける為、曾我高田氏が慈明寺へ甲50人で出陣する。越智氏が坊城西に甲70・80ばかり布陣する。 9月22日義就軍が布施高田城を攻めると伝えられる。

		9月25日越智家栄が布施高田氏・布施氏を攻め散郷を焼き払う、国中合戦始まる。 10月5日義就出陣、従軍する者越智家栄・吐田・曾我高田・万歳・岡・小泉・高山。將軍側政長軍は、筒井順永・成身院光宣・箸尾宗信・布施・布施高田・多武峯等々。 10月越智家栄・曾我高田が、布施城・布施高田城を攻め落とす。置恩寺焼失する。布施氏・布施高田氏の衆が筒井氏等と箸尾城まで退き、箸尾城に入城する。
1467	文正2年	正月、越智氏は筒井、箸尾、布施高田等の没収地を獲得した。政長・筒井方の敗北。
1467	応仁元年	応仁の乱始まる。東軍細川勝元・畠山政長・筒井党・当麻為秀・為長、東軍に加担する。西軍山名持豊・畠山義就・越智党・古市氏等。
1468	2年	8月政長側、若江城・誉田城を義就・越智家栄軍攻める。
1469	文明元年	5月20日高田の子息（興福寺知足坊住）他界、春日明神の御罰と言う。 11月20日成身院光宣没 80歳。
1470	2年	高田堀江の始祖、堀江宗慶（高田城老職）死去71歳。法松院照誉浄和居士、妻北見氏。 8月政長軍が護る若江・誉田両城を西軍諸将と越智家栄が攻める。
1471	3年	4月23日当麻三河守為長（妻は飯高城主毛利吉信女）が、一族家臣団の為に菩提寺として常光寺を建立する。 7月13日幕命により布施行種・布施高田（中務丞）氏、河内より還住を許される。 7月筒井順永・箸尾為国・猶原・俱志羅・十市遠清・布施・布施高田（前高田）等は西軍の河内若江城の湯佐五郎征伐に出発。 8月布施行種が万歳城を取り巻く。万歳氏苦戦する。 〔布施方〕箸尾・猶原・俱志羅・十市・筒井・前高田（布施高田） 〔越智方〕万歳・八田・飯高・当高田（当麻高田）・吐田・小泉・古市 高田氏は前高田（布施高田）と当高田（当麻高田）の両派に分かれて抗争していた。 閏8月9日十市遠清が楊本範満父子を攻め殺す。 10月東軍筒井順永・十市遠清・箸尾為国が河内若江城を攻める。 12月越智家栄が義就と謀って兵を宇智郡に進めると將軍義政は大乗院尋尊に命じて越智氏を討たせた。
1472	4年	片岡氏、畠山義就方に降伏。片岡利盛 没。 8月宇陀郡の沢氏と芳野氏合戦、衆徒・国民それぞれが合力、芳野氏敗れる。
1473	5年	8月3日当麻為秀没49歳。妻は津田大和守敏信（元尾州上田郡岩倉城主也）の娘也。 11月筒井順永が河内野崎に出陣。越智家栄、根成柿安楽寺南無妙法蓮經千部読誦。
1474	6年	高田当麻氏は筒井の一門たり。興福寺講衆布施高田氏・布施弟討伐に進発する。
1475	7年	大和国は、越智一門（吐田・曾我高田・小泉・高山・万歳・岡・古市・山田・山陵）と筒井一門（十市・猶原・布施・布施高田・秋篠・宝来・木津・立野・箸尾・片岡・超昇寺・佐川） 5月2日吐田氏と猶原氏が合戦・吐田側に越智氏・古市氏が加勢俱氏城に入る。猶原氏方甲七百余、筒井氏・箸尾氏の他、河内・紀州勢が加勢する。 5月23日布施高田と万歳氏・曾我高田氏が合戦する。布施高田氏が万歳郷を焼く。布施側筒井舜覚坊が加勢する。万歳氏には、越智家栄・古市代官長田筑前守・山村某が加勢する。筒井・布施・布施高田氏敗北し、河内に逃亡する。 春日社頭に於いて東軍の成身院舜房順宣・十市遠清・箸尾為国が西軍の越智家栄・古市胤栄と合戦、西軍が敗北する。 筒井舜覚順尊・佐川某らは大内氏の兵を山城木津と天神川原に攻め破った。
1476	8年	有井城主当麻為隆の嫡子、当麻為綱が蓮如の門弟となる。筒井順永没 58歳。
1477	9年	応仁の乱終わる。 義就が政長方の誉田城を攻める、筒井順尊・箸尾及び宇智軍の国人杉野・宇野・坂部・野原氏は政長とともに戦うも敗れ、筒井順尊・箸尾追撃されるも福住に逃亡する。 国人杉野・宇野・坂部・野原氏は自害する。 義就方の大和吐田勢が嶽山城を陥す。 西軍の勢力拡大により、平群嶋・宝来祐尊・筒井順尊・箸尾・成身院順宣・安楽坊・萩別所・小林・辻子・木津・金剛寺・曾部・北院・小南・今市新・六条・堀等は没落。

		<p>10 月高田為長、妻の実家高市郡飯高城を攻める。古市の後詰めが遅く、城主毛利吉信は自害し高田氏が勝利する。境界争いが原因。高田に河内大和の畠山方多数応援。</p> <p>10 月越智氏・古市氏が筒井順尊・箸尾為国を破り南都を占拠し、筒井氏福住の山中に逃亡。十市・龍田・片岡氏が越智側に付く。</p>
1478	10 年	<p>春日若宮祭礼の流鏝馬勤仕に散在党〔越智小三郎・南脇源七郎・鳥屋次郎左衛門・玉手五郎・曲河左衛門次郎・小嶋源内・奥田八郎・坊城源次・脇田左衛門・江堤三郎〕</p> <p>10 月越智家栄の娘が古市澄胤に嫁ぐ。</p>
1479	11 年	<p>春日若宮の祭礼願主人、4 人の中に平田党の高田氏が無事勤めた。</p> <p>3 月十市遠清が義就方に寝返った弟兵庫戌亥を父遠清とともに殺害し、十市城を焼いて、山辺郡小山戸に父遠清は城上郡小夫に逃れる。</p> <p>3 月古市澄胤は、筒井順尊の没落先の福住の寺院や民家を焼き払った。</p> <p>8 月十市遠清が筒井順尊とともに義就方に反撃を加えるべく立ち上がったが、多武峯寺に謀れて失敗に終わる。十市党、新賀・木原・田原本南・八田。</p> <p>10 月 3 日筒井と古市が合戦、筒井方に布施高田氏が加勢する。</p> <p>筒井順尊は福住・十市父子は小山戸に潜み、部下・足軽を出動させて、郡山や中城の民家を焼いたり、義就方の兵糧米、年貢を奪ったりした。</p> <p>10 月 15 日越智・古市へ合力の万歳・曾我高田氏ら兵糧米輸送に手こずる。</p>
1480	12 年	<p>越智党の面々、高山・古市・曾我高田・岡・万歳・小泉・龍田・山田・立野・吐田等、義就の居城河内高屋城に参上し、軍事会議開催。高田氏、春日若宮で流鏝馬を行う。曾我高田氏曲川に発向。</p>
1481	13 年	<p>7 月畠山義就が逝去したと噂に、没落中の政長方の国人がそれぞれ自身の城館に戻り筒井順尊が菅田へ、十市遠相は田原本へ、箸尾為国は法貴寺・結崎へ出陣した。</p> <p>成身院順尊が福住城に入る留守に、越智代官の今市城主・堤栄重と古市澄胤の配下が、中川寺成身院を焼き討ちする。</p> <p>筒井順尊・箸尾為国・十市遠相・成身院順盛が平坦部に進出するも、戒重・八木で敗退。</p> <p>8 月畠山義就方の沢・秋山・片岡・軽の軍勢が、興隆寺・舞谷を攻め自焼没落させる。義就郡が長谷寺辺に出陣すると小夫も自焼没落する。</p> <p>9 月 28 日条〔大乘院寺社雑事記〕（衆徒・国民内縁等知音事）</p> <p>越智党：古市西ト番条ト縁者也・古市ト吹田ト縁者也・古市西ト窪庄ト縁者也・古市ト越智ト秋山也・古市西ト佐川ト縁者也・番条ト白土ト縁者也・白土ト窪庄ト縁者 俱志羅ト古市兄弟遠縁者也</p> <p>筒井党：窪城ト十市北縁也筒井ト也・窪城ト筒井ト縁者也・十市ト筒井ト縁也・十市ト箸尾ト縁也・榎原ト筒井ト縁也・筒井ト遊佐ト縁也。</p>
1482	14 年	<p>3 月高田天神宮第五度目の造立、施主当麻為永 44 歳。</p> <p>6 月畠山義就方の高山氏・片岡氏が幕府の命により畠山政長方に降参する。</p> <p>8 月畠山政長方の筒井順尊・成身院順盛が本拠筒井城に入り、稗田・箕田を焼き払う。十市遠清・箸尾為国らは菅田に陣を構える。</p> <p>8 月管領政長方の布施高田氏・筒井氏とともに守口城を攻め落とす。</p> <p>9 月越智・沢・秋山軍が十市・箸尾郷を焼く。この時、箸尾為国が裏切り筒井城を越智が占拠。また郡山中軍は天井・新木を古市勢が櫟本を焼いた。</p> <p>10 月 30 日筒井順尊・十市遠清箸尾為国と越智家栄・高田為長古市澄胤が結崎で合戦。十市勢が小田方の八木郷を焼く。</p> <p>政長側の筒井党没落、義就側の越智氏優勢。</p> <p>12 月 30 日条〔大乘院寺社雑事記〕（河内引汲衆・畠山義衆方）</p> <p>越智親子・同鳥屋・当麻高田・万歳・吹田・南郷・俱志羅・立野・龍田・戒重・小泉・楊本・庭田・須川・豊田・郡山中・古市・山田・多田</p> <p>〔官領方引汲牢人・畠山政長方〕</p> <p>筒井・今市新・丹後庄・小南・市本辻子・小林・瓜生・北院・松立院・郡山辰己・櫟原・萩別所・山田城・嶋・曾部・吉備・相谷・飯高・七条・野輿・白土・池内・十市父子・八田・新賀・出雲中・宣尾・榎原・曾我高田・布施・田原本南・長谷川党・箸尾・小</p>

		夫・金剛寺・小山戸・福住・福智堂・高樋・興隆寺・木津・佐川・番条・曲川・窪城・高山・超昇寺・秋篠・坂上・大安寺向
1483	15年	当麻雅楽佐為長が、証菩提寺不動院を建立する。為長 44 歳。 箸尾と万歳が境界争論。 奥田善教寺、勝目より移転。 大和布留郷民四千人、興福寺段銭に抗議し布留社に籠もって抵抗する。 9月義就側の越智方と政長側の筒井方が合戦。筒井方敗れ布留・釜口・山内に没落、また、十市・箸尾為国が結崎に布陣するもが箸尾為国が降伏し十市氏没落、小南氏・宝来氏も没落。越智氏の代官 堤栄重が筒井城に入城する。
1485	17年	高田代官ら使者として山城国に赴く。越智小三郎出動。先陣を高田・箸尾が勤める。山城一揆、古市澄胤・筒井順尊等の大和衆徒、国人が山城より大和に撤退する。 10月越智党の山田某が筒井党の福住城を攻める。筒井党が越智党の多田城・上笠間城を陥落させる。
1486	18年	1月東山内に没落していた筒井・十市の国人衆が東山内の小山戸・鞭田・白石・向淵に布陣し、越智等の発向に備える。 10月越智党の多田某と筒井党の吐山某が白石に於いて合戦。古市氏と堤氏が多田に合力。
1487	長享元年	10月12日曾我高田氏と万歳氏が争論。 前年に続き多田氏と吐山氏が合戦。多田氏が吐山氏に降り、越智・古市軍は退去する。
1488	2年	10月將軍義尚より筒井順尊に越智家栄を討つよう奉書が出された。
1489	延徳元年	2月14日高田氏子息（為長二男）新三郎吉麻呂（多武峯住）逝去。大職冠の御罰と言う。 10月東山内で多田・吐山両派で紛争が起こり多田側の上笠間氏が没落、古市澄胤の部下と越智氏代官堤栄重が出陣。12月多田氏も自焼没落する。 7月筒井順尊牢人のまま京都で死去 39歳。長男順賢が家督を継ぐ。叔父順宣が後見。
1490	2年	高田当麻氏は、越智氏の一門一乗院被官。 8月万歳氏と岡氏、水争いから合戦。岡氏に義就方の越智 箸尾・曾我高田・龍田が加勢。万歳に古市・佐川が加勢。万歳氏の居城が放火される。万歳氏が敗退。
1491	3年	当麻雅楽佐為国生まれる。徳政一揆大和に蜂起する。筒井順尊没 39歳。 有井城主当麻刑部亮為綱、蓮如に帰依し得度、正行寺を建立する。 12月十市遠相が父遠清に先立って死去。
1493	2年	將軍義材河内出陣に伴い、畠山政長方の大和牢人筒井党の成身院順盛等が拳兵する。越智・古市方の小城次々に自焼没落する。 2月十市氏足軽が越智方の楊本を攻める、楊本没落する。 4月十市遠清が没落先の京都から帰郷、十市郷に進出、越智勢と八木で合戦するも、敗れ宇陀軍に没落する。 4月將軍義材が細川政元に追われ、義高が細川清元により11代將軍に擁立される。 4月越智家栄・古市澄胤が曾川政元と連合して、畠山政長を河内に破り政長自害する。 5月越智家栄が上洛、衆徒・国民これに従う、越智氏最盛期なり。 同道衆徒・国民：高田・岡・万歳・箸尾・小泉・井戸・楊本・戒重・森屋筒井・大西・郡山中・高山・龍田・片岡・南郷等々なり。 畠山義就病死する。横大路西福寺五輪塔地輪部に為成阿弥と有り。
1494	3年	4月越智氏、男山八幡宮に太刀を奉納。従う者曾我高田・岡・万歳・小泉・井戸・箸尾・柳本・戒重・森屋筒井・大西・郡山中・高山・龍田・片岡・南郷。 堀江 2世堀江宗政（玄蕃頭）死去 68歳 寛心院厚岳浄仁居士。妻は箸尾堀江氏の娘也。堀江宗慶の娘八重は、老中老職 森淡路に嫁ぐ。
1495	4年	10月十市遠清、死去。 10月4日越智家栄、高取で病死。69歳。
1496	5年	東中の教専寺が、本願寺実如の弟子となり寺号を得る。一向宗
1497	6年	筒井・成身院と越智党の古市澄胤が、猿沢池辺りで戦う。越智党に曾我高田氏が加勢する。古市澄胤敗れる。

		11 月畠山尚順（政長の子）は、筒井・成身院・布施高田・箸尾・布施を従え壺坂を攻める。畠山尚順は越智方の万歳城を攻め落とす。越智氏親子・大蔵氏吉野に逃れる。筒井氏が越智氏を凌いで優位に立つ。
1498	7 年	4 月越智党の鳥屋氏・曾我高田氏が小夫氏を助け小夫城に籠もる。片岡利持が畠山尚順に攻められ大敗し自害する。尚順側の十市・箸尾により小夫城落城。
1499	8 年	2 月当麻高田氏・曾我高田氏、春日参籠の為、南都西林院に宿泊。当麻高田・曾我高田氏、籠名のうえ高札に掲げられ六方衆に踏み込まれる。 10 月 1 日当麻為長死去。61 歳。妻毛利吉信の女。以後、布施高田清房が高田の盟主也。 10 月筒井・成身院・越智・櫛原等、大和武士（古市氏を除く）申し合わせ和睦成る。大和を窺う他国勢を防ぐための団結なり。 12 月細川政元の臣赤沢宗益が、筒井成身院順盛を討つ。筒井氏が河内に逃亡する。
1501	文亀元年	4 月興福寺六方集会開催。他国の武家を入れないことを決め、越智氏・古市氏に委託。
1502	2 年	細川政元の被官赤沢朝経、大和に侵入筒井党を逐う。古市澄胤が合力。筒井、堺に逃亡。高田堀江氏四世宗高玄蕃頭が生まれる。
1503	3 年	当麻為長の供養塔が造られる。（専立寺五輪塔輪部銘）
1504	永正元年	細川政元の家臣、沢蔵軒宗益が氏で没落。古市澄胤を筒井等大和の国人衆が破る。
1505	2 年	1 月 4 日 12 人の国判衆により、筒井党と越智党の和議成立し春日大社前に於いて盟約する。高田氏国判衆となる。 古市胤栄没する。 国判衆 12 人、成身院明舜坊順盛・布施安芸守行国・越智弾正忠家令・万歳右京進則定・箸尾上野介為国・吐田修理進遠光・櫛原三郎栄遠・十市新次郎遠治・岡弥次郎政行・筒井良舜坊順賢・布施高田当次郎清房・倶志羅。 5 月 24 日当麻・布施両高田氏、河内に在国す、大和へ帰国叶わず河内国へ忍住する。
1506	3 年	安位寺再建奉加帳の国人衆の内、高田当次郎清房が有り、これは布施高田であろう。赤沢宗益が細川政元の名により大和侵攻する。国衆団結抵抗するも諸城落ちる。
1507	4 年	細川政元・赤沢宗益殺害される。 8 月 24 日当麻・布施の両高田氏和解のため畠山上野介義英が當麻まで出動。 9 月赤沢長経が細川澄元の命により大和に乱入す。国衆抵抗するも総崩れ、筒井氏・成身院は河内高屋城へ、十市氏は河内太子へ、箸尾は堺に敗走する。 11 月 14 日筒井順賢・十市遠治ら高田城から万歳城に入る。 11 月 15 日高田入城の国人ら宇智郡に退却する。大和各地焼ける。 古市胤盛・越智家令没。
1508	5 年	赤沢長経が初瀬で敗れ、京軍撤退する。赤沢に加担の古市澄胤没落し死去する。
1511	8 年	7 月河内において、前將軍義澄方〔越智党〕と將軍義伊方〔筒井党〕合戦。義伊側の畠山尚順敗れ、筒井・箸尾・十市の各氏も東山中に没落した。高田城には越智方の高田上総介清房・箸尾城には万歳氏・倶志羅氏等が固めた。 8 月筒井・十市・箸尾各氏が巻き返し、古市の城を攻め、十市・吐田・多田・小夫等は敗れて、春日山中に逃げ込む。
1513	10 年	曾根の一向宗寺院が二条名称寺と称する。
1516	13 年	越智家教・古市澄胤が、筒井順盛・十市清矩を攻め唐院で破る。越智党は義英側、筒井党は植長側。
1517	14 年	4 月越智城を筒井・古市・十市の 3 大將が攻め、越智敗北。宮奥の随国寺で越智家教自害。
1520	17 年	8 月筒井順興・越智家全・古市の三者の和議成立。十市遠治は京都に没落中。この頃筒井順興は、衆徒棟梁の官符職。国判衆〔成身院・布施・箸尾・越智・万歳・櫛原・十市・片岡・倶志羅・高田等〕
1521	大永元年	細井戸城主、浅井右近大夫忠行、近江に生まれる。浅井忠兵衛貞政 忠政の二男なり。 8 月筒井順興が越智家全の娘を娶り連携を強化する。この為、十市は筒井と義絶する。十市氏が遊佐氏の取りなしで大和に還住する。
1524	4 年	畠山義英と畠山植長合戦。越智家頼・筒井順興、龍田に出陣。植長を援助。筒井順盛没 68 歳。

1526	6年	春日社に布施受満が石灯籠を寄進。
1527	7年	春日社に布施家栄が石灯籠を寄進。
1528	享禄元年	筒井氏と越智氏の両派が争う。筒井氏優勢なり。
1529	2年	細川高国の武将柳本賢治が京軍を率いて大和に乱入。筒井順興が東山に逃れる。
1531	4年	3月高田天神宮第6度目の造営。河内守護木沢長政を畠山義宣・筒井順興らが攻撃。高田堀江氏五世宗房(善蔵)生まれる。
1532	天文元年	一向一揆勢が筒井順興を追う。奈良で町人雁金屋主殿率いる門徒が興福寺に放火する。興福寺大衆高取城を攻める。救援の筒井氏・十市氏により一揆勢は吉野に敗走する。木沢長政が飯盛城を本城に二上山城・信貴山城を築き、龍王山城の十市遠忠と戦う。
1533	2年	浅井右近忠行13歳近江より来たり。大和広瀬郡細井戸城主となる。妻は箸尾城主為重の娘で、箸尾宮内為春の妹なり。
1534	3年	この頃、高田城の武威最も振るえり。 十市遠治死去、遠忠が跡を継ぐ。
1535	4年	3世堀江政高没70歳。英智院仁卓浄勇居士、妻は当麻為秀公娘小松姫。筒井順興没42歳。
1536	5年	大和に一向一揆、筒井、越智等の衆徒応戦。浅井忠行の舎弟、浅井孫右衛門入道教清、広瀬郡見立山に入馬、出井氏の始祖なり。
1537	6年	木沢長政が越智討伐に南下、越智家定貝吹城に楯籠もる。 布施左京亮満清が、高田の森図書介宗業・万財彦太郎資尚その族臣福田善左衛門重俊等と共に新城二ツ塚に楯籠もる。
1540	9年	木沢長政と十市遠忠・筒井順興・越智家頼連合軍が和睦。
1541	10年	木沢長政、河内長屋城で戦死。信貴山城・二上山城を畠山稯長方の遊佐氏が占拠。
1542	11年	十市遠忠が木沢側の柳本城等を落として武威を上げる。
1543	12年	4月筒井順昭が箕川城を攻め古市氏の本拠を焼く。古市氏が宿敵筒井氏の配下となる。 7月越智、万歳が細井戸ほ攻めるも、筒井、箸尾の応援により敗退。
1544	13年	筒井順昭・十市遠忠・高山主殿助等で柳生宗厳を攻め落とす。 箸尾為政春日社に石灯籠。
1545	14年	筒井順昭の妹婿、十市遠忠が死去。十市遠勝が筒井氏の配下となる。越智家頼死去。
1546	15年	筒井順昭が6千騎を以て越智の貝吹城、沖田城を囲んで越智家増を走らす。筒井順昭は、嘉幡氏・布施高田氏・八条氏等に城番を命じ陣払いをする。 8月十市遠勝が筒井方の万歳氏の竹内城を攻めて敗北し吉野に逃れる。 箸尾為政死去。
1547	16年	専修院に等貞盛寿大姉建立の位牌あり。 5月筒井順昭が箸尾為政を殺して城を壊し、もともと同格であった国衆の十市、越智、古市、箸尾、高田の諸衆をその配下に収める。
1548	17年	春日大社に、堤栄政〔越智氏の代官〕の石灯籠。
1549	18年	筒井氏第48代筒井順慶出生。越智氏貝吹山城奪還の為に城番を攻める。布施高田・布施氏が背後を衝き越智氏退却。
1550	19年	高田氏・万歳氏水論争、筒井順昭兵力25,000を以て与党高田の為に万歳を攻撃。
1551	20年	筒井順昭 急死 28歳。
1555	24年	常光寺に当麻為業(为国?)が三界蔓霊供養石碑建立。 12月12日未明に未明に突然何者かが高田城に二十人余が奇襲攻撃し放火、高田父子防戦十三人を討ち取る。曾我大路堂に近郷悪党乱に宇し放火、曾我高田氏と思われる。 春日大社に大和武士堀江源介寄進の石灯籠あり。
1556	弘治2年	堀江四世 堀江宗高(玄蕃頭)死去54歳。徳豊院順和浄安居士。
1557	3年	越智家増が貝吹城の奪回を謀るもならず。
1558	永禄元年	春日大社に源家増の石灯籠。筒井順慶早薨に際し、嶋・松倉等春日大社に詣で中臣祓をする。
1559	2年	松永久秀信貴山に入国。三好長慶が久秀を使って畠山高政側の和泉井戸良弘を辰市城に囲み救援した筒井順政は敗れて宇陀に逼塞。万歳、沢の諸城も落ちて大和を制圧する。 牢人十市遠勝が畠山高政と三好義賢を和泉に敗死させる。

		松永久秀が井戸良弘を攻める。
1560	3年	久秀は南都に多聞城を築き、信貴山山城と共に両拠点とした。松永軍郡山城を始め、万歳城・沢城・初瀬桜坊城・桧牧城を落とす。筒井順政はじめ国衆は国外に亡命した。この時順慶15歳。
1561	4年	久秀が十市遠勝の十市城を攻める。松永が多武峯を攻めるも勅使の勧告により和睦。
1562	5年	久秀が大和国中に棟別銭を課す。十市遠勝が娘を人質に久秀に降る。
1564	7年	筒井順政が堺で客死。根成柿に越智より天満宮が移される。
1565	8年	高田当次郎為業、松永久秀に組する。 11月筒井順慶、久秀の来襲に会い筒井城を捨てて布施城に逃げ込む。久秀に従わねばその身が危ないと高田が百年の筒井との交好を破り久秀に与し、怒った筒井、布施が高田城下を焼き討ちする。
1566	9年	筒井順啓、三好三人衆の応援を得て南都を制圧し筒井城を奪還、久秀河内に奔る。越智家増が筒井氏より貝吹城を受け取り入城する。 足利義昭入洛に際し、十市氏の参陣を求めたが、高田が替わる事を申し入れる。
1567	10年	松永久秀南都に帰り、順慶筒井城に入る。 久秀東大寺を焼き討ち、筒井敗退。この頃、当麻為国と畠山高政が友好関係にあった。 政長 尚順 植長 政国 高政
1568	11年	筒井城、松永久秀により落城。高田解放される。高田当次郎為業勝利の祝辞久秀言上。 9月織田信長上洛す。松永久秀は信長に忠節、大和守護と成る。 加担する者、当麻高田、高山、郡山辰己。 一方筒井に加担する者、十市、箸尾、布施、井戸、柳本、万歳、岡、檜原、片岡等国人。松永の旗本となった高田の勢力強大となる。 9月布施軍、高田城を囲む4年籠城。松永救援により解放される。 11月松永軍が越智の貝吹山城を攻撃するも敗退。松永軍が万歳氏の万歳郷を焼き払う。
1569	12年	4月8日当麻雅楽佐為国(当麻家31世3代城主)死去79歳。妻、箸尾為重の娘・4月松永久秀、片岡城片岡新介を攻める。久秀筒井方の万歳城を攻め落城さす。 11月貝吹山城が松永のために落城する。十市遠勝死去。 十市遠勝の娘と久秀の武将竹内秀勝の媒酌人として高田殿多聞城に入る。
1570	元龜元年	興福寺二条宴乗、曲川鞠室錢不納で曲川鞠室、高田三河守為業に督促する。
1571	2年	8月7日布施氏が高田城の出城を落とす。高田氏約40人討ち取られる。高田当次郎為業没落。 辰市城合戦で順慶が松永久秀を破る。越智家高が暗殺される。
1572	3年	筒井順慶、多聞城攻めで東大寺南大門に陣取る。松永久秀片岡郷を焼く。
1573	天正元年	松永久秀が足利義昭に呼応して信長に背く。室町幕府滅亡。多聞城筒井順慶・佐久間信盛が攻め久秀が信長に謝罪。高田・岡が筒井順慶に帰順。高田堀江氏六世惟政玄蕃頭生まれる。
1574	2年	高田、岡、箸尾、筒井順慶と共に佐和山城にて織田信長に謁見忠誠を誓う。
1575	3年	9月1日高田舎弟の高田為房が津田宗及に書簡(消息)を送り、高田氏のことを依頼。高田城の当主は、当麻三河守為業なり。大和の支配が、松永久秀から原田直政に替わる。越智氏養子に布施彦七(家秀)入る。
1576	4年	筒井順慶、大和守護となる。春日若宮祭礼の願主高田・曲川が務める。
1577	5年	織田信長が、根來・雑賀衆を討つ。久秀反旗を翻す。筒井順慶、松永の支城片岡城攻め、松永金吾の柳本城を落とす。 10月10日松永久秀が信貴山城で自害。 越智家増死去。高田堀江七世宗道生まれる。六世惟政の弟なり。 布施行国春日神社に石灯笼寄進。
1578	6年	龍王山城の破却始まる。 10月筒井順慶、吉野に出陣。飯貝、上市、下市を占拠。
1580	8年	織田信長、筒井順慶に命じ大和の諸城を破却。高田城、箸尾、十市、越智、檜原、岡、吐田、布施、万歳、片岡。 9月8日信長、安土へ十市新次郎・高田氏・布施氏を呼ぶ。

		<p>明智・滝川等代官奈良に来たり。国人に差し出しを命じる。高田の差出高3、000石、越智氏12、000石、片岡氏3、500石、岡氏2、000石、大仏供500石、戒重1、500石、吉備氏100石。当麻三河守為業（当麻家32世第4代高田城主藤七郎為業）中ノ坊で生害当麻氏牢人。</p> <p>10月28日大仏供、戒重、吉備、岡弥仁郎も処刑。</p> <p>筒井順慶、高田に進駐。当時筒井順慶より津田宗及に処分の知らせ有り、宗及是非に及ばずと返書。また、箸尾宮内大輔からも連絡あり、かつての高田氏との誼から、明智光秀にも通報すると返書。当時の当麻家御内衆家老森淡路、堀江玄蕃頭、軍奉行西島孫太郎、年寄山本孫之丞、大目付吉原甚次郎。筒井順慶、矢田で松永久秀を手引きした郡山辰己父子を処刑する。引き続き越智党の弓場志摩守ほか重臣を成敗した。春日大社に細井戸藤右近尉入道行尊石灯籠寄進。岡弥次郎正行石灯籠寄進。</p>
1581	9年	堀江五世堀江宗房（善蔵）死去50歳。謙光院明達浄敬居士、妻は同家中堀江氏の女也。筒井氏が額田部で吐田遠秀を処刑する。
1582	10年	本能寺の変、信長討死。当麻丞為政（当麻家33世5代城主）高田城に還る。春日大社に大和武士、森猪介寄進の石灯籠あり。春日若宮祭礼、頭屋筒井順慶・願主人越智玄蕃頭家秀が勤める。
1583	11年	<p>1月高田三河守西悦為政、春日大社に武運長久の石灯籠寄進する。</p> <p>当麻丞為政、筒井順慶に追われ雑賀、根來衆を頼るが紀州鷲の森にて8月14日討死。太守に城を空け紀州に赴くを危険として諫めしは、家老森淡路、老職堀江源蔵信正、山本孫之丞（年寄）、西島孫太夫（軍奉行）、吉原甚次郎（大目付）等也。籠城を主張する老職和堀江源蔵は、家老堀江善蔵玄蕃頭惟政幼少につき、後見人箸尾の家臣堀江新助の舎弟。</p> <p>8月26日南方国衆の旗頭越智家房玄蕃も内紛により死亡する。筒井氏の大和支配確立する。</p>
1584	12年	8月11日筒井順慶没36歳。
1585	13年	8月24日筒井定次、伊賀上のへ転封。豊臣秀長郡山入城する。大和大納言。
1587	15年	11月13日当麻為成（当麻家34世6代城主）郡山城外にて、豊臣秀長の為に自害。当麻氏遂に滅ぶ。郡山城まで従った重臣森淡路・堀江源蔵・山本孫之丞等それぞれ帰農する。
1588	16年	高田新町専修院の尼僧は、当麻為成の家来、森庄助の息女宗言なり。
1590	18年	礪野順照寺が藤森より移転。 小田原の北条氏滅亡。
1591	文禄元年	豊臣秀長、郡山城内で病死。豊臣秀保郡山城主となる。
1593	3年	増田長盛が郡山城主となる。
1595	4年	文禄検地で高田村の村高1578石余。
1597	慶長2年	細井戸忠行〔浅井姓〕没76歳。膳覚院殿心誉行尊大居士、墓は広陵町安部正法寺に有り。
1598	3年	豊臣秀吉没

参考文献 朝倉弘著. 名著出版, 1993 (奈良県史:第11巻).
大和高田市史、改訂版 大和高田市史

資料編集 大和高田市歴史文化振興委員会 森 勲